患者向医薬品ガイド
2026年7月更新

ペルマックス錠 50μg
ペルマックス錠250μg

【この薬は？】

販売名	ペルマックス錠50μg Permax Tablets	ペルマックス錠250μg Permax Tablets
一般名	ペルゴリドメシル酸塩 Pergolide Mesilate	
含有量 (1錠中)	50μg	250μg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。
したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。
医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。
ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。
さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、パーキンソン病治療剤（麦角（ばっかく）製剤）と呼ばれるグループに属する薬です。
・この薬は、脳内の神経伝達物質であるドパミンの受容体を刺激して、パーキンソン病の症状である手足のふるえ、筋肉が硬くなる、動作緩慢、歩行障害などを改善します。
・次の病気の人に処方されます。
パーキンソン病
・非麦角製剤の治療効果が不十分または忍容性に問題がある（非麦角製剤による副作用のため治療が困難）と考えられる人に用いられます。
・この薬は、体調が良くなったと自己判断して使用を中止したり量を減らしたりすると、病気が悪化したり、悪性症候群（高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえなど）や薬剤離脱症候群（無感情、不安、うつ、疲労感、発汗、疼痛な

ど）などの症状があらわれることがあります。指示どおりに使用し続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。
・過去に麦角製剤で過敏症のあった人
・心エコー検査により心臓弁膜の病変があると診断された人および過去に診断されたことがある人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
・精神病の人、または過去に精神病になったことのある人
・不整脈の人、または過去に不整脈になったことのある人
・胸膜炎、胸水、胸膜線維症、肺線維症、心膜炎、心膜滲出液、後腹膜線維症と診断された人、または過去にこれらの症状になったことのある人
・レイノー病（指先が冷たくなる、指先が青白くなるなど）の人
・腎臓に障害がある人、または過去に腎臓に障害があった人
・肝臓に障害がある人、または過去に肝臓に障害があった人
・妊婦または妊娠している可能性のある人
・授乳中の人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

○この薬の使用前に心エコー検査などにより、心臓弁膜症の有無が確認されます。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

・この薬は、通常、レボドパ含有製剤と併用して飲みます。
・飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
・通常、成人は、50μg錠１錠を１日１回、夕食直後に飲み始め、症状、年齢などにあわせて少しずつ増量し、最も適した飲む量を決めて維持量とします（標準維持量は250μg錠を１日３～５錠）。
・１日量が２錠の場合は朝食直後に１錠および夕食直後に１錠、１日量が３錠以上の場合は毎食直後に飲むように指示されます。

●どのように飲むか？

コップ１杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して２回分を一度に飲まないでください。
気がついた時に、１回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は１回とばして、次の時間に１回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

嘔吐（おうと）、血圧が下がる、興奮、幻覚、動悸（どうき）、脈が乱れるなどの症状があらわれる可能性があります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合には、すぐに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・本剤の開始時に消化器症状（吐き気、嘔吐（おうと）など）や血圧の低下がみられることがあります。症状がみられた場合は、医師に相談してください。
・心臓弁膜症があらわれることがあります。息切れしやすくなる、息苦しい、動悸（どうき）などの症状があらわれた場合には、ただちに医師に連絡してください。
・この薬の使用中は、使用開始後３～６ヵ月以内に、それ以降は少なくとも８～１２ヵ月ごとに心エコー検査が行われます。また、定期的に聴診などの身体所見、胸部X線、CTなどの検査が行われます。
・間質性肺炎があらわれることがあります。発熱、咳、息苦しい、息切れなどの症状があらわれた場合には、ただちに医師に相談してください。
・前兆のない突発的睡眠（突然の耐えがたい眠気）、傾眠（刺激がないと眠ってしまう）がみられることがあるので、自動車の運転や高所での作業などの危険を伴う作業は行わないようにしてください。
・社会的に不利な結果を招くにもかかわらずギャンブルや過剰で無計画な買い物を持続的に繰り返したり、性欲や食欲が病的に亢進するなど、衝動が抑えられない症状があらわれることがあります。患者さんや家族の方は、医師からこれらについて理解できるまで説明を受けてください。また、これらの症状があらわれた場合には医師に相談してください。
・この薬を急に減量または中止すると悪性症候群（高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえなど）や薬剤離脱症候群（無感情、不安、うつ、疲労感、発汗、疼痛など）があらわれることがあります。自己判断でこの薬を急に減量または中止しないでください。また、このような症状があらわれたら医師に相談してください。
・本剤を長期にわたり服用している人で、服用を突然中止した場合、幻覚があらわれることがあります。本剤を中止する場合には、医師の指示通りに減量してください。
・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
・授乳している人は医師に相談してください。
・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。
このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
悪性症候群 あくせいしょうこうぐん	高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえ、体のこわばり、話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、脈が速くなる、呼吸数が増える、血圧が上昇する
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱

重大な副作用	主な自覚症状
胸膜炎 きょうまくえん	胸の痛み、発熱
胸水 きょうすい	息苦しい、息切れ、咳、胸の痛み
胸膜線維症 きょうまくせんいしょう	咳、胸の痛み、息苦しい、息切れ
肺線維症 はいせんいしょう	咳、息切れ、息苦しい、発熱
心膜炎 しんまくえん	体がだるい、発熱、息苦しい、息切れ、動悸（どうき）、胸の痛み、むくみ
心膜滲出液 しんまくしんしゅつえき	体がだるい、発熱、息苦しい、息切れ、動悸（どうき）、胸の痛み、むくみ
心臓弁膜症 しんぞうべんまくしょう	息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重が増える、動悸（どうき）
後腹膜線維症 こうふくまくせんいしょう	腰痛、背中の痛み、下肢のむくみ、尿量が減る
突発的睡眠 とっぱつてきすいみん	突然の耐えがたい眠気
幻覚 げんかく	実際には存在しないものを存在するかのように感じる
妄想 もうそう	根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、論理的な説得を受け入れようとしない
せん妄 せんもう	軽度の意識混濁、興奮状態、幻覚、妄想
腸閉塞 ちょうへいそく	便やおならが出にくい、吐き気、嘔吐（おうと）、お腹が張る、腹痛
意識障害 いしきしょうがい	意識の低下、意識の消失
失神 しっしん	短時間、意識を失い倒れる
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、唾液・痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	むくみ、汗をかく、高熱、出血が止まりにくい、体がかゆくなる、体がだるい、体重が増える、発熱、疲れやすい、力が入らない、食欲不振

部位	自覚症状
頭部	ぼーっとする、意識の消失、意識の低下、興奮状態、軽度の意識混濁、幻覚、妄想、根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、実際には存在しないものを存在するかのように感じる、短時間、意識を失い倒れる、突然の耐えがたい眠気、論理的な説得を受け入れようとしない
顔面	鼻血
眼	白目が黄色くなる
口や喉	よだれが出る、飲み込みにくい、咳、唾液・痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、吐き気、話しづらい、嘔吐（おうと）
胸部	胸の痛み、呼吸数が増える、息苦しい、息切れ、動悸（どうき）
腹部	お腹が張る、腹痛
背中	腰痛、背中の痛み
手・足	下肢のむくみ、手足のふるえ、脈が速くなる
皮膚	皮膚が黄色くなる、あおあざができる
便	便やおならが出にくい
尿	尿の色が濃くなる、尿量が減る
その他	血圧が上昇する

【この薬の形は？】

販売名	ペルマックス錠50μg	ペルマックス錠250μg
PTPシート		
形状	錠剤	錠剤
長径	11.7mm	
短径	6.4mm	
厚さ	3.8mm	
重さ	300mg	
色	うすい黄色	うすい緑色
識別コード	KH120	KH121

【この薬に含まれているのは？】

販売名	ペルマックス錠50μg	ペルマックス錠250μg
有効成分	ペルゴリドメシル酸塩	
添加剤	黄色三二酸化鉄、クロスカルメロースナトリウム、ステアリン酸マグネシウム、乳糖水和物、ポビドン、L-メチオニン	青色二号アルミニウムレーキ、黄色三二酸化鉄、クロスカルメロースナトリウム、ステアリン酸マグネシウム、乳糖水和物、ポビドン

【その他】

●この薬の保管方法は？

・直射日光と湿気を避けて室温（１～３０℃）で保管してください。
・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

・絶対に他の人に渡してはいけません。
・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：大原薬品工業株式会社（https://www.ohara-ch.co.jp）
お客様相談室
電話（フリーダイヤル）：０１２０－４１９－３６３
受付時間：９時～１８時（土・日・祝日・その他弊社休業日を除く）

GU①